

舞台芸術創造セミナー2019

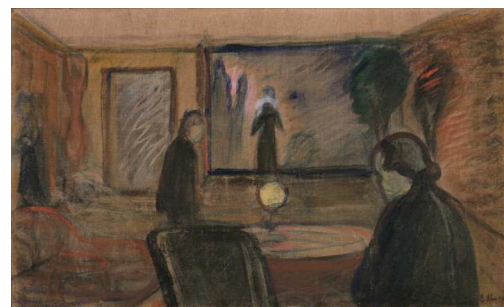
アーティストと制作者のための舞台技術講座

【セノグラフィーとは何か?】

新しい舞台芸術作品を創造していくアーティストや制作担当者が知っておきたい舞台技術を取り上げる舞台芸術創造セミナー。
今年、『ムンク | 幽霊 | イブセン』公演に関連して、美術と舞台空間に焦点を当てたトークとワークショップを行ないます。

① トーク 画家と舞台美術の近くて遠い関係!?

愛知県美術館に収蔵されているエドヴァルド・ムンク『イブセン』からの一場面』はイブセン『幽霊』の上演のために描かれた作品です。ムンクの生きた時代にはアルフونس・ミュシャやトゥールーズ＝ロートレックなど美術界だけでなく劇場でも活躍する画家多く現れました。ムンクや同時代の美術作家について舞台芸術との関係から探ります。



©ムンク『イブセン』からの一場面

参加無料

2019年 9月28日(土) 10:00-12:00

会場: アートスペースH

トークゲスト: 杉山 至氏 鳴海 康平氏 他

② ワークショップ セノグラフィーとは何か? 〈イブセンの戯曲から考えてみる〉

通常“舞台美術”と訳されることが多いセノグラフィー (Scenography)。日本ではまだ馴染みの薄い言葉ですが、Scene+Graphicという語源を考えると、視覚や聴覚といった知覚や空間など、実に広い領域のことを指しています。今回はイブセンの戯曲をテーマにセノグラフィーについて考えてみましょう。



杉山 至(セノグラファー)

舞台美術研究工房・六尺堂ディレクター、二級建築士。近年は劇団「青年団」、「地点」、「サンプル」等の舞台美術を担当。また舞台美術ワークショップを多数実施。2006年カイロ国際実験演劇祭参加。作品「地点」「つぼ」にてベスト・セノグラフィー賞受賞。

2019年 9月27日(金) 19:00-21:00
28日(土) 13:00-16:30会場: 27日…大リハール室
28日…アートスペースH

鳴海 康平(演出家)

1979年生まれ。早稲田大学在籍中の99年、劇団を設立。これまで国内20都市、海外4ヶ国8都市(韓国・ドイツ・フランス・台湾)で作品を上演。2004年ロシア、08年香港にて研修。12年から1年間、ポーラ美術振興財団在外研修員としてフランスで活動。14年、三重県津市に拠点を移し、新劇場Theatre de Bellevilleを開設。16年~18年の3年間にわたる日台国際共同プロジェクトを実施。

参加料 2,000円

※戯曲『人形の家』『幽霊』『ヘッダ・ガブラー』いずれか1冊を事前に入手し、読了の上で参加ください。

※2日間連続で参加してください。

申込方法

ws8@aaf.or.jp

メールでお申込みください。



●件名に「美術と舞台美術、セノグラフィー」申込み

●本文に ①名前(ふりがな)

②参加したいプログラム名(①トーク又は②ワークショップ)

③連絡先(メールアドレス、携帯電話)をご記入の上、お申し込みください。

ご記入いただいた個人情報は愛知県芸術劇場(公益財団法人愛知県文化振興事業団)にて厳重に管理し、本事業を運営するために使用し、それ以外に使用しません。

①トーク
先着50名②ワークショップ
先着20名

関連公演

第七劇場×愛知県芸術劇場×愛知県美術館『ムンク | 幽霊 | イブセン』

演出: 鳴海 康平 製作: 第七劇場

使用テキスト: 『幽霊』(作: ヘンリック・イブセン)

『MUNCH'S IBSEN』(JOAN TEMPLENTON 編)他

2020年 1月11日(土)-13日(月・祝)

公演詳細は
劇場ウェブサイト
をご確認ください。<https://www-stage.aac.pref.aichi.jp/event/detail/000174.html>主催
お問合せ

愛知県芸術劇場

〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2

TEL 052-971-5609 (10:00-18:00)

